

シード倉敷商 意地



【玉野―倉敷商】8回裏倉敷商1死二、三塁、大森幹の左犠飛で三走の川井が生還し、6―2とする。捕手秋友―倉敷マスカット

3回戦進出 不調の投手陣 堅守で支える

倉敷商は玉野に安打数で上回れるなど苦戦したが、シード校の意地を見せ6―2で勝利。主力の中山は「素直にうれしい」と胸をなで下ろした。

投手陣が本調子でなかったのが押し込まれた要因だ。引地、左腕小引、右横手鈴木の順に登板したが、いずれも制球が定まらず計7与四球で被安打10。流れを持っていかれるような痛打こそ浴びなかったものの、森光監督は「(全員)もっと頑張ってくれないと。開き直って投げてほしい」と奮起を促す。

伝統の堅守が投手を支えた。四回2死一、三塁で、三遊間の深い位置に飛んだゴロを遊撃手の金原が守備範囲の広さと、「元投手なので自信がある」という強肩を生かし一塁でアウト。ワンバウンドの送球を好捕した一塁手中山のプレーも見事で失点を防いだ。

8強を懸けた次戦は関西と激突する。県大会では昨春から勝ち負けが交互に訪れている。「作戦はない。思い切っていく」。ライバル撃破に向け森光監督の言葉に力がこもった。

(平野裕久)

玉野 000000000202
倉敷商 100030001x6
▽二塁打 吉岡、木村▽捕逸 妹尾

【評】倉敷商は一、二回に、それぞれ金原の前適時打、押し出し四球で小刻みに加点。五回は中山の右越え適時打や木村の右前に落ちる適時

二塁打などで3点を挙げた。登板した3投手はいずれも制球に苦しんだが、大崩れしなかった。玉野は一回1死満塁を逃すなど計15残塁。八回岩崎星の2点左前打で追いついたが、及ばなかった。(平野裕久)